

平成 27 年度 第 2 回滋賀県がん診療連携協議会

日時：平成 28 年 3 月 23 日(水) 午後 5 時～

場所：クサツエストピアホテル 2 階 瑞祥の間

【協議会構成員】

真鍋会長（成人病センター 総長）

松末副会長（滋賀医科大学医学部附属病院病院長）、石川副会長（大津赤十字病院病院長）

宮地会員（成人病センター病院長）、清水会員（公立甲賀病院病院長）、

金子会員（彦根市立病院病院長）、多賀会員（市立長浜病院病院長）、高山会員（高島市民病院病院長）、

笠原会員（滋賀県医師会顧問）、佐藤副会長（滋賀県歯科医師会） ※代理、

大原会員（滋賀県薬剤師会会長）、石橋会長（滋賀県看護協会）、

松井会員（滋賀県放射線技師会会長）、岩井会員（滋賀県臨床検査技師会副会長） ※代理、

村西会長（滋賀県歯科衛生士会）、菊井会員（滋賀県がん患者団体連絡協議会会長）、

八木会員（滋賀県がん患者団体連絡協議会副会長）、

嶋村健康医療課長（滋賀県健康医療福祉部） ※代理、

鈴木会員（協議会企画運営委員会委員長、相談支援部会部会長、成人病センター副院長）

【欠席】

芦田会員（滋賀県歯科医師会）、入野会員（滋賀県臨床検査技師会）、

藤本会員（滋賀県健康医療福祉部長）

【陪席者】

大野地域連携部会長（大津赤十字病院 副院長）

水田がん登録推進部会長（成人病センター 院長補佐）

村田研修調整部会長（滋賀医科大学附属病院 副病院長）

堀緩和ケア推進部会長（成人病センター 院長補佐）

【事務局】

相談支援部会事務局：石見（成人病センター 地域医療連携室 参事）

地域連携部会事務局：加藤（大津赤十字病院 係長）

がん登録推進部会事務局：田中（成人病センター 疾病・介護予防推進室 参事）

診療支援部会事務局・研修調整部会事務局：黒瀬（滋賀医科大学医学部附属病院 課長補佐）

緩和ケア推進部会事務局：今堀（成人病センター 地域医療連携室 副参事）

会長あいさつ

（真鍋会長）

本日は年度末の大変お忙しいところ、滋賀県がん診療連携協議会へのご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、平素は、本協議会の活動に対し格別のご支援・ご協力を賜り、改めまして厚くお礼を申し上げます。

本協議会は、平成 21 年 3 月に設置されて以来、「がん医療の向上」「がん医療の均てん化」「医療機関の連携体制の構築」などを目的として、これまで 7 年間活動を続けてまいりました。この間、がん

対策推進基本計画の見直し、また本県では、がん対策推進条例の制定等がん対策の推進が図られ、本協議会においても皆様の御協力のもと、こうした政策を踏まえた取組を行ってまいりました。そして昨年は、がん対策推進基本計画中間評価を踏まえた「がん対策加速化プラン」が策定され、本年度中には、がん対策基本法の改正と第3期がん対策推進基本計画の策定に向けた取組が予定されるなど、国においては一層のがん対策の推進が図られているところであり、本協議会の活動もこうした動きに合わせていかなければならないと考えています。

本日は、この1年間の活動について評価を行う他、国の動向や、本県の診療特性に応じた協議会・部会の所掌事務の見直しについて、ご協議をいただきたいと考えております。会員の皆様には是非とも忌憚のないご意見をいただくとともに、活発なご議論をいただきますようお願いいたします。また併せて皆様の活動状況についても、この機会に情報発信していただけると幸いです。

それでは、簡単ではございますが、以上をもって私からの開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございました。それでは本日の資料の確認をさせていただきます。資料は4種類お配りいただきましたが、もしお手元がない場合はスタッフにお申し出ください。本日の出席者一覧の資料をつけさせていただきました。本日は歯科医師会の芦田様の代理として副会長の佐藤様、臨床検査技師会入野様の代理として副会長の岩井様、滋賀県健康医療福祉部藤本様の代理として健康医療課の嶋村様にお越しいただいております。事務局の手違いで大変申し訳ないですが、地域連携部会長の野先生にもお越しいただいております。診療支援部会長の谷先生は遅れて来られるとのことでした。それでは以降の進行を真鍋会長にお願いしたいと思います。

(真鍋会長)

それでは議事に入らせていただきます。次第に沿って協議事項の一つ、平成27年度各部会の最終報告についてです。まずは各部会からのご説明をいただきます。それが終わりましたから、皆様方からご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願ひします。では協議会、企画運営委員会からご説明をお願いします。

1 協議事項

(1) 平成27年度各部会の最終報告について

**協議会・企画運営委員会 ⇒ 相談支援部会 ⇒ 地域連携部会 ⇒ がん登録推進部会
⇒ 診療支援部会 ⇒ 研修調整部会 ⇒ 緩和ケア推進部会**

(事務局)

協議会、企画運営委員会事務局の打田と申します。では資料集1ページをご覧ください。協議会、企画運営委員会の目標としまして、滋賀県のがん医療の質の向上と均てん化、がん診療連携の推進ということで、アクションプランに記載の内容について今年度1年間取り組んでまいりました。

実績評価ですが、資料に中間評価、最終評価とありますが、まず6月と11月に歯科医師会様主催の医科歯科連携講習会に、協議会から医師も参加させていただきました。内容の補足説明、質疑応答などをさせていただきました。拠点病院の未設置であります東近江医療圏については、今年度の指定については見送ることとされましたが、引き続き最適な形を県とともに検討することといたしました。

皆様の御協力のおかげで、第7回の滋賀県がん医療フォーラムを開催することができました。冒頭会

長の挨拶にありまして、新しい指針、国の動向、県の特性に対応した所掌事務の見直しにかかる調整を行いまして、各部会所掌事務の見直しを行いました。

在宅がん医療、病病診在宅連携については、企画運営委員会としては取組が進んではおりませんでした。次年度以降、部会にて情報共有を進めていく予定というふうにいたることができました。以上で全体としては、ほぼ計画通り取り組めたということで、評価はAとさせていただきます。

2ページ、歯科医師会様からご提供いただいたがん医科歯科連携登録歯科医療機関の一覧です。県内では65の医療機関で、医科歯科連携の登録をされています。次年度以降は、こうした登録をいただいている医療機関との連携を、具体的にどうするかというのがテーマというか課題になるのではないかと考えております。

3ページですが、医療安全に関する各病院の取組状況ということで、こちらは国の指針により取組状況を数字で評価し、情報共有や総合評価ができるPDCAサイクルの指標ということで、当委員会ではがん診療で生じた安全上の問題について、医療安全管理部門等で検討している割合をあげて、委員会で内容を見てまいりました。検討については、すべての病院で「はい」と書いてあるとおり行っているのですが、その他医療安全に関する項目で一部未実施の病院がありますので、取組を進めていただけたらと考えております。医療安全に関しまして、こちらで調べた項目に関してですが、ほぼ実施できているという状況ですので、28年度以降は別のテーマを設定して、各病院で情報共有を諮ってまいりたいと考えております。

4ページですが、各部会のPDCAのチェックリストです。各部会からそれぞれ報告をさせていただきますと思います。以上です。

(相談支援部会事務局)

相談支援部会事務局の成人病センターの石見です。相談支援部会については、5ページのアクションプランシートをご覧いただきたいと思っております。がん相談支援の充実というものを1年間の目標といたしまして、27年度の項目に従って実施してまいりました。最終評価を見ていただきますと、がん相談窓口の相談員の資質向上に努めるということで、それぞれがん患者生活実態調査研修会の開催ということで、例年事例検討会をやっているものを、今年度はこちらの研修会を開催しました。それとがん相談研修会およびがん患者就労支援研修会を開催して、今年度については、近畿五府県で「地域相談支援フォーラム in 近畿」の共催を大阪で実施いたしました。リレー・フォー・ライフ・ジャパンしがとががん対策推進イベントに相談員をそれぞれ17名、18名を派遣しております。

がんサロンの普及とがん患者力・家族力向上事業、近畿がん政策サミット2016、ピアサポーター養成講座と、がん患者会さんへの協力ということで、活発に実施されているものに対する協力させていただいております。「滋賀の療養情報」の内容について、療養情報の作成ワーキングというのを事務局含めて5人のメンバーで設置いたしまして、2回実施いたしまして検討して、第4版という更新版を作成しております。8千部の予定にしております。年度末の予定でまた配布させていただきたいと思っております。

PDCAサイクルですが、がん相談後のアンケートの実施結果について、内容の分析と来年度の実施方法についての検討を実施しております。

4ページ、PDCAということで上から二つ目が相談支援部会ですが、がん相談支援センターの利用者の満足度をあげることを計画してまいりまして、そのためのDo(実行)ということで、がん相談後のアンケートを実施するというので、Check(中間評価)としては各拠点病院等で実施状況にばらつきがある

ため、年度末までに全拠点病院等で実施することにしておりましたが、実際として実施できていないところもありましたので、来年度も継続していきまして病院で実施いたしまして、Action(改善)として、アンケート結果を分析して、利用者満足度を上げるように来年度もっていきたいと思っております。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。続きまして地域連携部会をお願いします。

(地域連携部会事務局)

地域連携部会事務局を担当させていただいております大津赤十字病院の加藤です。よろしくお願ひします。6、7 ページ、地域連携部会としては目標をがん診療地域連携ネットワークの拡充ということでさせていただいております、今年度平成 27 年度のアクションプランとしては、がんの地域連携パスの活用年間 270 件を目標とさせていただいております、パスの運用マニュアルの見直しということ、アクションプランとしてあげさせていただいております。

最終評価としては資料 7 ページ 1 月末現在ですが、2010 年パス運用開始からの累計件数ですが、合計件数は千件を超えるパスの登録が滋賀県全域であります。今年度だけ見ますと 1 月末現在でパスの登録件数が 233 件ということで、年間 270 件目標とさせていただいておりますが、達成する見込みです。しかしパスの見直し等ワーキンググループで実施いたしておりますが、一部緩和ケアパス等の見直しが行えていないこともありまして、評価としては B 評価とさせていただいております。

資料 4 ページ PDCA のチェックリストですが、地域連携部会としては、滋賀県のがん地域連携クリティカルパスの適用率を数値目標とさせていただいております、がん登録データ等を基にして算出していますが、前年度 2014 年度と件数的、割合的にはあまり変化が見られなかったのですが、来年度としましては、より詳細な目標の設定の見直しと分母となる症例数の検討をさせていただこうかと思っております。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。続きましてがん登録推進部会よろしくお願ひします。

(がん登録推進部会事務局)

がん登録推進部会事務局の成人病センターの田中と申します。よろしくお願ひします。資料 8 ページをご覧ください。がん登録推進部会では、例年通り実務研修会を 3 回、実務相談会を 3 回、部会を 3 回開いております。取り組みはここに計画しましたとおり、実施時期がずれたものもございまして、ほぼ予定通り進捗いたしましたので、評価を A とさせていただいております。

特に 11 月に開催しました実務研修会では、初めての試みとしましてがん診療に関わる先生方にもご参加いただき、がん登録の理解を深めていただくということで募集しましたところ、拠点病院等から 13 名の先生方にもご参加いただくことができました。また、情報公開については、今年から患者会の方も部会に入っているため、情報公開について審議していますが、慎重に公開に向けて審議を重ねたほうがいいということで、来年度に継続して審議をしていく予定です。

資料 11 ページに PDCA についてまとめております。PDCA のテーマは病理診断のコードについて、きちんとコーディングができているかどうか見直すことにいたしました。9、10 ページに一覧表がございまして、各部位ごとに病理診断のコーディングしたものを集計してみますと、病院によって少し偏りがある点が見えたので、そういったところを中心に、実務者がもう一度病院でカルテを確認して、コーディングを確認する作業を行いました。その結果として、11 ページの表にありますように、確認し

た症例数は全体で1,800件を超えておりました、その中で132件の修正がありました。また疑義等も17件出まして、これについては研修会で外部からお招きしている病理の先生に疑義について解説いただいて理解を深めたところです。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。次に診療支援部会をお願いします。

(診療支援部会事務局)

診療支援部会事務局をさせていただいております滋賀医科大学附属病院の黒瀬と申します。それでは資料12ページをご覧ください。診療支援部会では27年度の目標に診療支援の推進と高度医療の推進ということ掲げまして、5つの項目について年間を通して取り組んでまいりました。

まず一点目の各病院の機能分担を目指した機能調査ですが、昨年度に引き続き、がん拠点病院、支援病院のがんにかかる各病院の診療の強み、専門性についての情報を、ホームページに掲載して一般の方も閲覧検索できるように、毎年厚生労働省へ提出しております現況報告書の中から、部会員の方に必要と思われる項目の選択をしていただく作業を行いました。

本年度第2回の部会で項目の選択はほぼ終了し、実際に県のホームページに掲載する仕組みを、ご担当者の方にご検討いただいていたのですが、昨年12月に公表されましたがん対策加速化プランの提言の中に、がん医療に関する情報提供、患者視点で簡単に検索できる拠点病院の検索システムの構築というのが、国がんの使命として明言されましたことから、今後はそれを見据えた形で県のほうで検討していただくということ、部会として結論づけました。なお、国がんの情報提供の中には支援病院のことは触れられておりませんので、これもふまえた形で県のほうで検討していただくこととしました。

二点目ですが、先進的（高度）ながん医療についてです。県のホームページに現在がん拠点病院、支援病院の先進的（高度）なという形で、がん医療について情報の提供をしておりましたが、それが少し更新されておりましたので、各病院に見直し作業をしていただきました。

三点目ですが、ホームページの拡充、メーリングリストの利用によるネットワークの構築というものを、先進的な医療等の推進や診療支援連携体制をはかるためのツールとして、メーリングリストを活用して部会員が情報交換し、推進するという仕組みができております。これはまだ利用が少ないですが、全体を見ましてすべて計画通り実施できているということで、総合評価はAといたしました。

診療支援部会のPDCAのプランですが、がん情報サイトの閲覧回数、Do(実行)としてサイトの充実をあげて取り組んでまいりました。年度末の評価ですが13ページを参考にご覧ください。

昨年4月に開設いたしましたがん情報サイトですが、各医療機関、団体のホームページからリンクをはっていただいたり、また、講演会、フォーラムのチラシ、ポスター等でがん情報しがというサイトをお知らせしましたことにより、徐々に閲覧回数は増加しております。

またアクションとしては、がん情報サイトの広報と利用促進のため、各医療機関、団体のホームページからリンクをはっていただくこと、講演会、フォーラム等のチラシでがん情報しがを紹介していただくことにつきまして、協議会長名で各医療機関等へ協力依頼の文章を送付していただくこと、と部会では結論づけました。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。次に研修調整部会よろしくをお願いします。

(研修調整部会事務局)

続きまして研修調整部会のご報告をさせていただきます。研修調整部会では今年度の目標を、各種研

修に関する調整と計画の作成として4つの項目について取り組みました。一つ目の支援病院の役割、連携の検討ですが、年度当初より講演会、フォーラム等、各医療圏で拠点病院と支援病院で協力して開催するよう、部会として推進を図りました。昨年11月に、協力依頼の文章を改めて各病院へ部会長名でお送りしましたが、各医療機関とも研修の企画そのものがほぼ済んでおられましたので、来年度以降に期待したいと思います。

二つ目ですが、分野ごとの講演会、研修会等の過不足の改善検討です。資料16ページの表は、平成27年度がん関係フォーラム、講演会等開催予定をお示ししております。ほとんど終わっておりますが、各医療圏別に疾患ごと、対象者ごとの集計をまとめて一覧表にしています。右横に各医療圏の開催総数がでております。この表をもとに毎回部会で過不足について検討しています。

次のページからは各講演会の詳細になっております。講演会等の参加人数とアンケートをとっている場合は満足度も表示しております。講演会実施後に結果をご報告していただきまして、こういう集計が出ております。当部会では毎月講演会、研修会の実施予定のリストを最新化いたしまして、県のホームページに掲載を行い、情報の共有をはかりました。また3回の部会で各医療圏別に分野ごとに講演会、研修会が多いか少ないかの検討を行い、改善案を提案し次の企画につなげていただくようにいたしました。

もうひとつ部会の中に看護ワーキングがあり活動されておりますので報告させていただきます。県内統一の看護研修会の実施ということで、看護ワーキングで看護師が中心となって、がん看護研修会を実施し、がんの看護実践の基盤となる講演をメインとしたプログラムを、今年は市立長浜病院で開催していただき、15名が受講終了いたしました。またプログラムⅠの研修修了者を対象とした、緩和ケア化学療法等の実際の実習や演習をメインとしたプログラムⅡを開催し、7名が全過程を修了されました。また平成26年度修了生、これはⅠもⅡも修了された方を対象にフォローアップ研修を行い、今年度7名の方が参加されました。以上全体的に計画通り実施いたしましたので、総合評価はAといたしております。

PDCAサイクルですが、研修調整部会のPlan（計画）は各医療機関、団体が主催する講演会、研修会等の満足度並びに参加人数、Do（実行）といたしまして、フォーラム、講演会等開催情報一覧表の表示項目の検討として取り組んでまいりました。

Check（年度末の評価）ですが、年度当初より県のホームページに載せておりますフォーラム等開催情報一覧表の表示項目に、講演会等の案内が載せております。また各病院のホームページやチラシにリンクをはり、サイトから情報を得やすくしております。毎月講演会後の開催情報について、最新の情報と実施した講演会の満足度や参加人数をご報告いただき、部会で検証し改善に努めました。いただいたアンケートの結果も、全体的に満足度が高いという評価をいただいております。

Action（改善）といたしまして、二次医療圏ごとに拠点病院、支援病院が協力し、各医療機関と団体等が協力し、講演会、フォーラム等を開催するよう連携体制の強化推進をはかり、参加人数の増加につなげることをひき続いて行いたいと考えております。

また参考資料といたしまして、37ページから各団体の取組をご報告いただいておりますので、つけさせていただきます。以上です。

（真鍋会長）

ありがとうございました。最後に緩和ケア推進部会からよろしく申し上げます。

（緩和ケア推進部会事務局）

緩和ケア推進部会事務局を担当させていただいております成人病センターの今堀と申します。資料 50 ページ、緩和ケア推進部会におきましては、緩和ケア研修会を中心として、フォローアップ研修や看護師さんの緩和ケア研修であります ELNEC-J 研修、県民の方を対象とした公開講座を実施させていただいたところです。特に緩和ケア研修会について申し上げますと、国の方から緩和ケア研修の受講率ということで、拠点病院に対してがん診療に関わる医師の 9 割、研修医さんについては 10 割の方について、緩和ケア研修会を 28 年度末までに受講するようにと、そういう通知が来たこともございまして、また滋賀県の場合は支援病院という病院も設けておりますので、拠点病院に支援病院も含めて、そういった目標値のもとに緩和ケア研修会を開催し、皆さんに実行いただいたところです。

昨年度平成 26 年度が医師が 91 名、医師以外の医療従事者が 46 名、併せて 137 名の方にこの緩和ケア研修会を受講いただいたのですが、今年度平成 27 年度については、医師については 246 名、医師以外の医療従事者については 25 名、併せて 271 名ということで、昨年度の受講修了者は 137 名に対して今年度は 271 名ということで、ほぼ倍の方々に受講いただいたという結果がでています。

来年度から国の研修会に関わる指針が改正ということもありまして、27 年度については経過期間という位置づけだったのですが、来年度から本格的に新たな新指針に基づいて、緩和ケア研修会を実施することになりますので、標準プログラムということで、それぞれの研修会の元となるプログラムを 2 月にワーキンググループを開催しまして、見直し案を作成し、今月開催しました部会で承認をえて、来年度から新しいプログラムに基づいてこの緩和ケア研修会を進めていきたい、そのような段取りで進めてきたところです。

各研修とも順調に終了したと思っておりますし、今年度は当初各拠点病院 1 回ずつの緩和ケア研修の予定でしたが、国からそういった通知がきたこともございまして、2 月に滋賀医科大学附属病院と済生会滋賀県病院さんに追加という形で、研修会を実施していただきました。そういったこともございまして、評価としましては、当初の計画以上に実施できたということもございまして、A をつけさせていただいております。

それから 4 ページ、PDCA サイクルについては、緩和ケア研修の受講率を指標にあげているわけですが、計画どおり進んでいるということで、Action（改善）のところですが、今年度は済生会滋賀県病院さんもやっていただいたのですが、そのほかの支援病院さんもできるだけ研修会をやっていただくということで、既に済生会滋賀県病院さん以外の支援病院さんからも、来年度実施したいという手もあがってきていますので、部会としても支援していく予定にしております。以上です。

（真鍋会長）

ありがとうございました。協議会、企画運営委員会および各部会をまとめてご説明いただきました。地域連携部会がパスの見直しが十分でないということで B ですが、その他の部会は最終評価は A ということで十分取り組めたという評価ですが、お聞きしていると随分熱心にやっていただいたと思います。

ご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ご質問等ございませでしたら、また後でその他のところでご追加いただければと思いますので、次に進みたいと思います。

それでは各団体における取組等の情報提供をお願いしたいと思います。ご質問でも結構ですのでよろしく申し上げます。最初に医師会のほうから申し上げます。

（滋賀県医師会）

滋賀県医師会です。私は昨年 6 月で会長辞めていますので、あまり毎回の医師会に行っていないので、資料を持ってきましたけど、ここに書いてあるように、がん登録の事業は終了したとか、こういういろ

んな事業に積極的に後援するとか支援するとかいろいろ書いてあります。

ただいつも問題になっていた緩和ケアの研修が、もうひとつ受けられてないのではないかとすることは、私はそのたびごとに医師会で言っていたのですが。ここに書いていませんが、今日は保険点数の改正の研修会に行ってきました。緩和ケアを質の高いがん医療の評価をするために、研修を受けた医師でないところは点数をつけないというような厚生労働省からプレッシャーがかかっております。たぶん、こちらのほうで研修を受けて、こういう緩和ケアをやっていかないといけないということを、県医師会としては重点項目にあげてくるだろうし、あげてこないといけないと思っております。

もう一つはその中で、5大がんの連携パスが1千いくつになったということがお話ありましたが、これってやれやれなのか、もっと連携パスが進まないといけないのか、その辺を教えてくださいたいと思います。

(真鍋会長)

連携パスについてご質問ありましたけれども、担当部会の方ご意見いただけますか。

(地域連携部会長)

地域連携部会長の野と申します。4ケタになってとりあえず少し喜んだのですが、ここ2、3年、件数の登録が鈍くなってきていることが一点、それと私どもの提供するパスのクオリティーの問題、これがもう一つであろうと思われませんが、思うように伸びないパスが肝がん、肺がん、乳がんですとかがあります。そういったパスがまだ残されているという状況で、まだまだ私どもがしないといけないことはたくさんあると思います。

(滋賀県医師会)

どうもありがとうございます。そういう情報、それと本当に発生するがんの数とそういうパスでつないでいかないといけないニーズの問題が、各地域であると思います。これをしっかり県医師会が把握して、それを地域医師会に流して、研修を受ける人たちを増やしていかなければいけないと思いますので、私のほうから伝えていきたいと思います。

(真鍋会長)

ありがとうございます。それでは次に歯科医師会からお願いします。

(滋賀県歯科医師会)

歯科医師会の取組結果です。全国共通がん医科歯科連携講習会を、昨年度と今年度実施いたしました。厚生労働省は日本歯科医師会に委託をした事業で、それを本県の歯科医師会が実施したということです。要するに手術期のがん患者さんに、適切な歯科治療や口腔ケアを実施できるような人材確保を目的とした事業ということで、昨年度2回、今年度3回実施いたしまして、鈴木先生には今年度はずっと立ち会っていただいて、いろいろなサジェスションやら質問に答えていただき、大変充実した講習会を開催することができまして、その結果資料集の2ページに掲げているような医療機関の方々が、歯科治療なり口腔ケアを実施しますよと手をあげていただきました。

ただ会員の医療機関のうち13%ちょっとなものですから、全国平均で20%くらいなので、本県、実際何も事業として始まっていないので、多いのか少ないのかわかりませんが、せめて全国平均並みにもっていききたいと考えております。それからこの取組と関連がありますけれども、ここには記載していませんが、例の地域医療介護確保総合基金を利用した事業ということで、歯科あるいは口腔外科のない病院に、歯科医師ないし歯科衛生士を派遣して口腔ケアを実施するという事業を、今年度から済生会滋賀県病院のほうで少し始めました。まだ事業として進捗していないのですが、これがどう今後発

展していくのか、できましたら全県下の病院に上手く使えるような形でのシステム化を検討したいと思っております。それともう一つ、口腔がんの一般の方への啓発の事業を、各地域で行っております保健の啓発活動の中で、少し実施して理解を深めていただくようにして、こういう事業を今年度実施いたしました。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。それでは薬剤師会をお願いします。

(滋賀県薬剤師会)

27年度については、在宅ホスピス薬剤師というのを滋賀県で作っているのですが、そこに認定された者のフォローアップ研修を2回させていただきました。そして医療用品共有システムおよび在宅医療推進のための薬局機能情報サイトの継続運用ということで、この医療用薬品の共有システムというのは、お薬がどこにどれだけあるかがわかるのと、それと衛生材料の小口の発注ができるシステムをリニューアルをさせていただきました。

滋賀医科大学附属病院と成人病センターで開催されるがん関連の研修会へ、たくさんの人間を参加させていただけるように宣伝をさせていただきました。更に抗がん剤調整研修会について、三回開催をさせていただきました。28年度についても、同じような内容で研修会をさせていただきたいと思っておりますし、抗がん剤および無菌調整剤の研修会も併せて開催させていただきたいと思っております。

お薬手帳について、今年度から4月の診療報酬で電子のお薬手帳が認められましたので、抗がん剤を服用されている方については、なかなか紙のお薬手帳を持ちにくい。4月以降お薬手帳を忘れると一部負担金が高くなることになっていきますので、スマートフォンをお持ちの方は、電子お薬手帳を進めていきたいなと思っております。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。忘れてりもあるので、私も電子お薬手帳があるといいなと思うので、作ってほしいなと思います。次は看護協会からお願いします。

(滋賀県看護協会)

看護協会から報告をさせていただきます。看護協会では毎年5月に「看護フェア」というものを開催しておりまして、地域の住民の皆様方にご参加いただくというところにおいて、がん相談コーナーというのを設けております。相談支援の方の協力をいただきまして、一日そのようなコーナーに来ていただくようなことを開催しました。それから地区ごと研修をしておりまして、4圏域におきまして、在宅ケアを支える看護職員の方々を中心に、看取りの研修会を開催させていただきました。それから第7地区湖西支部事例検討会ということで、がん患者さんの在宅支援について事例検討会をさせていただいております。

ここには記載されておきませんが、看取りについては訪問看護で夜間、早朝の定期訪問というモデル事業をさせていただいております。その中で夜間、早朝、利用される方については、やはりがんの患者さんのターミナルの方が2、3人いらっしゃったということで、この方々は特に夜間就寝前に疼痛コントロールだとか精神的な支援ということで、がんの方が治療を受けられて最期を迎えられる時には、訪問看護も活用されるということでご報告をさせていただきます。

28年度も同じく、看護フェアでは多くの県民の皆様方に門戸を広げまして、コーナーを設けたいと思っております。在宅看取りについては、専門看護師、認定看護師が各圏域に誕生しておりますので、各圏域において地域包括ケアを推進する上での活動を進めていきたいと思っております。出前講座や研修

会の開催で企画を検討しているところです。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。それでは放射線技師会からお願いします。

(滋賀県放射線技師会)

42 ページご覧ください。年に3回大きな研修会を催しているわけですが、今回は第1回目にメインテーマを「肝・胆・膵がん」におきまして、講演と各研究会のほうからも参加頂きました。

第2回目におきましては、転移に関する検査の紹介・工夫、「乳癌の転移検索検査と治療」ということで、滋賀医科大学附属病院の先生からご講演いただいております。

第3回目として、近畿地域の放射線医師を集めまして学術大会を開催し、ここではがん患者団体連絡協議会会長であります菊井さんにも来ていただきまして、座談会、それから放射線腫瘍学会の代表理事でもあります近畿大学医学部の西村先生にもご講演いただいております。これを市民公開講座という形で開催させていただきました。ただこの2月においては、各他でもがんフォーラム等があり、当日もあまり天気がよくなかったせいもありまして、参加人数も思うように集まらず少し残念な結果になりました。

平成28年度の取組としては、放射線技師、もちろんがんのテーマをすべて網羅したいということもあるのですが、他にも救急や静脈血栓等の話も聞きたいという意見もありますので、平成28年度に関しましては、第3回学術研修会のところで、がんに関するテーマを内容に盛り込んでいきたいと考えております。それ以外に専門研究会のほうでは、がんに関することとして、乳腺画像研究会での研究活動で、各地域をまわりまして、新しく入ってきたトモシンセシス等の装置に関する勉強会等を行っていく予定です。

それから昨年行ったモニター研修は、今年はできなかったというか行わなかったので、来年度以降に関しては、またモニターウォークを使った研修を網羅して、がんを発見する時に必要なモニターに関するところ、先生とのコラボもやっていきたいと考えています。

最後になりますが、放射線治療連絡協議会というのがありますが、ここで放射線治療に関する話し合いがあるわけですが、放射線技師会としても放射線治療専門研究会というのを立ち上げて、技師の資質の均てん化を目指すということで、がん拠点病院のみならず支援病院等に、放射線治療に携わっている技師を、その研究会のところで研究していただいて、均てん化を諮っていききたいと思います。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。一つだけよろしいですか。43 ページ、フリーコメントのところに、一般講演4施設の発表後にシンポジウムをしてほしかったというご意見の方がいますが、よくやる時に、シンポジウムをしてから症例提示をやるのが一般的ですが、どちらが、理解度が高くなるのかお話をされたとか、もしあればお聞きしたいと思います。

(滋賀県放射線技師会)

そうですね。この一般発表というのは一つの目標として、各施設の若い技師さんに研究発表していただく登竜門の場を設けております。そこでシンポジウムをするというところまでの企画は、実は考えてなかったところがあります。ですがこういった意見もあるので、次年度以降はその一つの研究発表に関して、シンポジウム形式も考えていきたいなと思います。

(真鍋会長)

ありがとうございました。それでは続きまして臨床検査技師会からお願いします。

(滋賀県臨床検査技師会)

臨床検査技師会から報告させていただきます。各医療圏の開催に協力するという目的で、27年度取り組んでいます。46ページから説明させていただきます。特に各医療圏で行われております健康フェスティバルに参加協力し、がんに関連する啓発活動を行っております。中には長浜市健康フェスティバル2015とか東近江健康フェア、平成27年度の湖南市の東海道石部宿まつり、おおつ健康フェスティバルに参加いたしました。その中に啓発も含めまして、臨床検査に携わる検査項目、体験等も実施しております。参加人数は毎年増えているというところです。

後は主催事業として、検査と健康展ということで今回は秋にイオンモール草津で実施しました。主にがん患者にしましては、腫瘍細胞の鏡検査体験、超音波検査、血管年齢測定等やらさせていただきました。この時、研修調整部会でもありましたように、満足度調査をやりましたところ、47ページにありますように子供も大人も多かったのですがほとんどの方が、よかったというのが91%、普通が9%、よくなかったというのはありませんでした。今後もまたこれは続けていきたいと考えております。

あとは共催事業として、子宮がん検診従事者講習会を、特に婦人科材料における最近流行っております液状化検体細胞診の講演とワークショップで従事者関係の協議にいたりしました。第1回保健医療従事者研修会、これはだいたい一つのテーマに絞りますね。「乳がんを知り、支えるために」をテーマに講演会を実施するのに協力いたしました。

あとは個々に臨床検査技師の専門性のあるがんに関する研修会等は多数行いました。

28年度の間組ですが、ほとんどだいたい同じですが、健康フェスティバルに参加、検査と健康展の実施、同じく共催として、子宮頸がん検診従事者講習会、テーマはまだ決まってませんが、子宮頸がん細胞診についての講演とワークショップを実施する予定です。第1回の保健医療従事者研修会は今度4月に会議があり、進める予定ですので未定となっています。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。それでは歯科衛生士会よろしくお願いします。

(滋賀県歯科衛生士会)

滋賀県歯科衛生士会からご報告させていただきます。27年度の間組結果といたしまして、毎年必ず年に1回、がんをテーマに研修会を開催していますが、今回は口腔がんについて開催いたしました。その他は手術期の口腔衛生管理について、歯科衛生士の立場から人材育成するプログラムを立ち上げています。

28年度の間組予定といたしまして、またがんをテーマに生涯研修会として今回は薬剤師さんをお願いして、お薬の勉強させていただこうと思っております。また他団体様からの研修会の案内を、会員に周知することも合わせて取り組んでいきたいと思っております。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。それでは滋賀県がん患者団体連絡協議会様からよろしく申し上げます。

(滋賀県がん患者団体連絡協議会)

資料75ページを開いてください。2月27日にピアザ淡海の3階の大会議室で、「患者力・家族力向上事業」を午前中に、午後から「がん政策サミット」を開催しました。開催にあたりまして、拠点病院の先生方にはご来賓として臨席いただいたり、また医療者の参加者が少ないということで、先生方にぜひ参加をお願いしましたら、午前中のがん患者力、家族力向上事業は200名収容できるのですが、満員の参加者でした。午後のがん政策サミットも、グループワークをしますのでたくさんは入りませんので、

128名という、グループワークには多すぎるぐらいの人数の方に参加していただきました。まずお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。アンケートの結果がでましたので、少し簡単に紹介させていただきます。

がん患者力・家族力向上事業では、ヴォーリズ記念病院にあります希望館の40日間、そこへおられる方をずっと撮った映画、「いのちがいちばん輝く日 あるホスピス病棟の40日」という映画を自主上映いたしました。自主上映にあたりまして、そこに登場してこられる最期の姿を、がん患者さん、家族さんはどんなふうな気持ちになられるのだろうか、私たちは少し心配したのですが、最後にヴォーリズ記念病院の細井先生にもフォローしていただくということで、私たちががん患者が本当は避けたい最期をやはり見ることが、がん患者力、家族力につながるのではないかとということで企画しました。

当日大津市の広報に撮りました関係で、アンケートの結果ですが、大津市から46%、一般の方、がん患者さん、家族さん、ご遺族さん、本当にたくさん来ていただきました。アンケートの文言のところを後でゆっくりお読みいただきたいと思います。皆さん本当に自分自身がんと向き合っていることで、先生方に感謝したり病院に感謝したり、またこういった人生を送りたいとか立場の違いによって、いろいろ書いてくださっていますので、ここにあげさせていただきます。

午後からは近畿がん政策サミット2016ということで、近畿でがん政策に携わっている患者から声を発信して、医療者、行政、議員の皆様に参加していただきました。近畿二府4県で行政は大阪だけが来ませんでしたが、他皆さん来られまして、当滋賀県はがん対策推進計画策定など、こういった委員会にも委員としての参加が、全国で飛びぬけて多いという評価をいただいております。がん患者、家族の声を本当によく吸い上げてくれている県ということは、全国でとっております。

滋賀県でするなら一回見に行こうということで、遠くは北海道から来られまして、滋賀県でやったことをモデルにして、7月24日に北海道がん政策サミットをするという報告が来ております。岐阜、島根、徳島からも来られました。

資料81ページに、基調講演はいかがでしたかと書いてありますが、NPO法人がん政策サミットの植岡健一さんという理事長に来ていただきまして、データを基に面白い話だったと思います。よかったという声が多かったのと、初めてグループワークをいたしました。この中にも参加して下さった先生方いらっしゃいますけれども、これも本当によかったと、92%のよかったという声をいただいています。それでグループワークとか基調講演ががん対策に役立ちますかということで、役立つという声があがっていますが、私たちどういうふうに役立てたらいいか、今後私たちの協議会、またこの中での課題にさせていただけたらありがたいと思います。その文言にも書いてありますように、ここにも各立場からがん政策に関する声もたくさんよせていただいておりますので、またゆっくり読んでいただけたらと思います。

報告としまして後期のピアサポーター養成講座を開催しまして、募集をかけましたら19名の中で1人が適正検査が通らなかったということで、18名、平成28年度から滋賀県のがんサロンで活動いたします。また同時に東近江医療圏内で、今年度近江八幡と東近江の病院の中で、がん患者サロンを二つ開催しまして、計9つのがん患者サロンをしております。

やはり私たち参加しておりますが、がんに向き合う時、少し勇気を失ってしまった時に、がん治療と向き合っている先輩の姿を見ることで勇気を覚えて、またがんに向き合おうという希望をもってサロンから帰って下さる方、本当に参加した方を先生方に見ていただきたいと思うんですね。再発転移した時に希望がなくなっても、サロンに行った時に、再発転移している人が本当に一日一日自分の人生を過ご

しているという姿を見て、話し合っ、そこで希望を感じてもらって、医療の展開はありますが、人間としての展開はないということを、みんな感じてくれていますので、ぜひ帰られたら院長先生、医療者から「サロンがあるから行ってみたら」ということを声掛けをしていただくと、やはり行ってみようかなと思いますので、そのへんをお願いしたいと思います。長くなりましたけど報告とお願いです。ありがとうございます。

(滋賀県がん患者団体連絡協議会)

ちょっとだけ追加させていただきます。患者力向上事業のところ、4人の患者さんの最期看取りのところが映画になっていますが、やはりそれを見て心が重くなったという方もいらっしゃいました。映画をもう1回見たいという方も複数人いらっしゃいました。ですから私としては、いずれ誰しも亡くなっていくわけで、やはりその時をいかに迎えるかは自分自身の考え、姿勢としてすごく大事なことだと思います。そういったこともまだまだ今後やっていってもいいのかなという気はします。

それからがん政策サミットのほうは、実はすごく最初心配していました。滋賀県の場合は先程報告がありましたけど、いろんな部会まで出席させていただいて、患者のほうからの発言も許してもらっていますが、全国的にみると、なかなかそのへんの環境が整っていないことがあります。近畿の中でももちろん滋賀県がいちばんいいのですが、そのほかの県について、ああいった一つのテーブルを囲んで、いろんな職種の人が一つのテーマで議論していつている。例えば医療者の方とか行政の方、あるいは議員の方から、抵抗があるのではなかろうかなという気も少ししましたが、実際やってみるとそういうこともなくて、議論をみんなで一生懸命していただきましたので、安心したしだいではあります。

まだまだ近畿の中でも患者の声を吸い上げるという姿勢は、滋賀県はいちばんいいのですが、まだまだ私たちこれも言いたい、あれも言いたいということがもちろんありますので、その都度発言させていただければありがたいと思います。

(真鍋会長)

ありがとうございました。いただきましたご報告やご意見等については、各部会のほうで参考にしていただいて、検討していただいて、できる限り反映していただくようお願いしたいと思います。ご意見いただいたことは、協議会全体を取り組むより良いものにしていくことになりますので、是非ともお願いしたいと思います。松末先生と石川先生のほうからご意見ございますでしょうか。

(松末副会長)

いろんな意見をいただきまして本当にありがとうございます。昨年も私申し上げたのですが、がん診療の関連事業について創成期を終わってきまして、いよいよ充実した質が問われる時期に入っているのをまさに感じました。各部会の皆様、非常によくがんばっていただいて、その結果、評価がA、Bが一つありますが、それも厳しい目で見てのBだと私は認識しております。

部会長が言われたように質の問題と言っていましたが、実は質の問題に入ると非常に大変だと思います。ある程度できあがってくるとこれからが大変だと思いますが、そういうところで先程患者団体ののがん患者力・家族力向上事業とがん政策サミットの報告をいただきまして、まさにアンケート調査、病院側が研修会をしてのアンケート調査で、また中身が違うところを思い知らされまして、これはとても参考になると思いますので、今後そういうことをふまえて、質を高めていければなというのが私の感想です。どうもありがとうございました。

(真鍋会長)

どうもありがとうございました。

(2) 各部会所掌事務の見直しについて

(真鍋会長)

それでは続きまして、協議事項の2の各部会の所掌事務の見直しに移りたいと思います。鈴木企画運営委員会委員長からご説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

(鈴木企画運営委員長)

鈴木でございます。各部会の所掌事務の見直しについてご説明させていただきます。今まで会長並びに事務局からお話がありましたように、国のがん対策に関しましては、今後益々充実していくところですので。今現在走っておりますがん対策基本法は来年度に改正されます。またそれに基づくがん対策基本計画についても、順次改正ということになります。

第1期の法律のもとで、私たちは企画運営委員会のもとの6つの部会の所掌事務を策定しましたが、前半は均てん化、診療が主でしたが、後半はいのちと暮らしというところに大きく歩を進めてまいっております。がん対策加速化プランにおきましても、がんとの共生というところで、こういった業務を行っていきなさいということになっております。

従いまして、昨年度からこういったところコンセンサスを各部会と持ちまして、今年度本格的に部会の所掌事務の改正について、丁寧に進めてまいりまして、本日53ページにございますように、見直し案をここにご提示してご支援していただきたいと思います。ちなみに51、52ページに関しましては、企画運営委員会で行われました各議論の要点をお示ししておりますので、後日ご覧ください。

資料53ページに移らせていただきます。大きく二つの行になっていますが、左側が現状の所掌事務、右側が企画運営委員会の案です。また54ページからは実際の設置要綱について、このエッセンスを落とし込んだものを実際に文章にしています。

では53ページに戻りまして、上から順に主な要点を説明したいと思います。まず企画運営委員会ですが、これは各部会の所掌事務の元で、総括して議論を進めていくということで、文に関しましてはほぼそのままとなっています。

相談支援部会ですが、国のほうでも言われておりますように、がん診療に関する情報というのは、中央で集約する、また各府県においては、こういった情報に関しては相談支援部会がある程度受け持つということで、情報の集約ということを入れております。また(2)に関しては、くらしということも大切だよというところで、就労支援こういったことを目指すということで、文言を入れてあります。また希少がん、妊孕性の温存、いわゆる患者さんに希望を持っていただくという、そういうところも(4)で実際行っていくことにしています。

続きまして地域連携部会です。地域連携部会は、積極的に5大がんのパス、また進行期それと緩和ケア、前立腺、非常に活動的に動かしておりますが、実際の評価に関しては来年度以降の作業かと思しますので、その評価に関することという文言を入れさせていただいております。

また在宅がん診療においても、やはりいろいろ県民の皆様方から質問がでるところです。この在宅がんに関して、中心となって行う部会はありませんので、地域連携部会において将来的にどのように策定していったらいいか、そのあたりを研究していただくことを所掌事務に入れさせていただいております。

がん登録推進部会においては、人材育成等積極的に行われております。

続きまして診療支援部会ですが、これは本来各3次医療圏におきまして、平たく言えば医療従事者を

適正配置しなさいというところの文言であります、全国的にどこも無理ということがわかりましたので、現状の最新の措置はとっております。そのかわり将来的な目的には、むしろ選択と集中ということも考えました各病院の機能分担、いわゆる強み、そういったところは引き続き診療支援部会で行っていただく。またアウトカム評価というのが非常に重要ですので、そこに焦点を合わせた作業をしていく。

また高度医療の推進に関しては、がん対策推進加速化プランにおきましても、臨床研究は非常に強く支持されておりますので、滋賀医科大学の強みとしての臨床研究、治験、そういったところを充実させていただくというところで、この文言を加えてございます。

続きまして研修調整部会ですが、まず名称に関して研修推進部会でいかがかというところ。そこでは、所掌病院としては滋賀医科大学附属病院です。従いまして、大学の強みとしての医療人の育成、すなわち人材の育成に関することを広く行うことにしています。今部会の報告がございましたように、看護の部会に関して非常に積極的になされておきまして、これをあまねく職種に関しても、御尽力いただけるようにしていただきたいということです。引き続き教育研修の企画調整、広報、滋賀県の特性、地域差、南北差、東西差がございまして、その研修の均てん化を引き続き行っていただくということです。

最後に緩和ケア推進部会でございますが、いちばん大事なものは緩和ケア研修です。すべてのがんを診る医師がこの研修受けることということで、医師会からも決意表明がございましたように、こういうことも中心に議論していく。それとかつ、在宅における緩和ケアも、県民の皆様方から非常にたくさん質問がでるところです。実際に在宅の緩和ケアというのは、それぞれの二次医療圏で主にやっておりますが、ただその二次医療圏同士の横のつながりは少し稀薄でございますので、この部会においてはそういう情報の共有というところをお願いしたいと思っております。簡単ではございますが、変更点の要点を見させていただきました。ご審議のほどよろしく申し上げます。

(真鍋会長)

ありがとうございました。今ご説明にありましたようなことで、一番ここで大切なものの一つは、研修調整部会が研修推進部会と名前が変わったことです。そして今までのものを資料3にまとめて書いてあるということですが、ここまでご質問ご意見ございますでしょうか。

(がん患者団体連絡協議会)

少し聞き漏らしたかもしれませんが、地域連携部会のほうで在宅医療のことを話していかれると先生おっしゃるんですね。

(企画運営委員長)

ご質問ありがとうございます。それぞれの地域における在宅のがん診療、まだまだ不十分どころがありまして、やはり各地域地域で行っている現状を、非常に差があるのですが具体的に把握することが必要だし、まずそれを行う。例えばワーキング的なところで、そういった情報を集めて、どのようにすれば滋賀県の在宅がん診療を、患者さんが納得してこの社会が迎えられるのかということ、ご研究いただくのが本意です。今ただちにここでどうこうは、今のところは考えてはおりません。具体的に一生懸命やられているのは各二次医療圏で、例えば三方よし、湖南ネット等ございます。

(真鍋会長)

よろしいですか。ということで、在宅関係はこの部会で担当することには間違いはないけれども、各地域の方でやっていくということで。

(協議会事務局)

ここでご承認いただけましたら、新年度 28 年度からこちらの所掌事務で各部会取組を進めてまいりたいと思います。

(真鍋会長)

57、58 ページのようになるということですね。これをお認めいただきたいということですね。よろしく願います。御賛同いただけるということですのでよろしいですか。ありがとうございます。

2 報告事項

(1) 第 7 回滋賀県がん医療フォーラムの結果および 28 年度の開催予定について

(真鍋会長)

それでは報告事項に移りたいと思います。まず「第 7 回滋賀県がん医療フォーラムの結果および 28 年度の開催予定について」です。事務局からご説明願います。

(協議会事務局)

資料 60 ページをご覧くださいませでしょうか。協議会主催のがん医療フォーラムですが、今いらっしゃる皆さまのご協力、チラシの配付ですとか、スタッフ・講師をお引き受けいただきましたおかげをもちまして、無事終了することができました。本当にありがとうございました。来年度以降も、企画運営委員会で当フォーラム内容を検討いたしまして、実施していきたいと思っておりますので、引き続き御協力のほどよろしく願います。

簡単に結果についてご報告いたします。今年 2 月 7 日、滋賀県のがんと向き合う週間中に、近江八幡市の男女共同参画センターで開催させていただきまして、500 名定員のところ 309 名の方にお越しいただきました。62 ページですが、アンケート取りました結果、フォーラム全体の評価として、とてもよかった、よかったで、94%の方にご満足いただきました。フォーラムの感想といたしましては、ちょうどフォーラムの前に 10 年生存率の報道が国立がん研究センターからありまして、若尾先生が出ていただいたというのもあり、タイムリーで非常によかったというご意見ですとか、妊孕性の問題や、障がい者のがん医療や遠隔病理診断ですとか、普段なかなか聞く機会が少ない内容について、知ることができたのでよかったというご意見を頂戴しました。

マイナスのご意見としましては、いろいろ内容を盛り込みすぎましたので、時間が推してしまったということと、会場からの質問をなかなか受けつけることができなかったということで、テーマを絞るか、時間を長くしてほしいといったご意見をいただきました。

今後取り上げてほしいテーマとして、64 ページに記載いたしました。いろいろなご意見を頂戴しましたが、具体的ながん治療について教えてほしいとか、がん治療に伴うケアについて教えてほしいですとか、在宅との地域連携について教えてほしいといったご意見をいただきました。

65 ページ以降が、今まで開催いたしましたがん医療フォーラムの開催実績になります。28 年度については、事前に協議会の関係団体を皆様に紹介させていただきまして、他に大きなイベントがない日、がん向き合う週間の期間中であること、JR 沿いからなるべく徒歩で行けるような 500 人程度の会場ということで探しまして、68 ページに書かせていただきましたが、2 月 8 日の土曜日に場所は天津市のピアザ淡海で開催させていただきたいと考えております。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。ただ今のご報告に関してどなたかご質問ございませんか。よろしいですか。次回は平成 29 年 2 月 4 日ということです。よろしくお願いいたします。

それでは続きまして報告事項 2 番目、滋賀県がん情報サイト等の周知についてです。事務局からよろしくをお願いします。

(2) 滋賀県がん情報サイト等の周知について

(協議会事務局)

引き続き私からのお願いですが、最初のほう診療支援部会事務局からご説明がありましたとおり、診療支援部会では県民の皆様に対しまして、がんについての知識や理解を深めていただけるように、滋賀県が作成運営されています「がん情報しが」というがん情報サイトを利用して、情報の発信を行っております。また研修調整部会では、病院、関係団体の皆様が企画されています研修、フォーラムの情報を集めまして、同じく「がん情報しが」ですとか、患者団体様が作成運営されています「滋賀患者力.com」に載せさせていただいて周知を行っております。

こういった情報サイトを多くの方にご覧いただきまして、がんに関する情報により多く接していただきたいというのがありますので、ぜひ協議会関係の皆様、ホームページをお持ちだと思いますので、「がん情報しが」と「滋賀がん患者力.com」のホームページへリンクを行っていただきたいというのが一点です。

二点目が各病院団体様で研修をされる時にチラシ等を作られると思いますが、チラシにおかれましても「がん情報しが」、「滋賀がん患者力.com」の周知をしていただけないかということです。具体例と言いますか参考といたしまして、60 ページに、2 月 7 日に開催しましたがん医療フォーラムのチラシを添付させていただいています。実際のチラシに文言を修正したのですが、チラシのいちばん下にごんに関する情報、県内のイベント・講習会はこちらということで、「がん情報しが」、「滋賀がん患者力.com」の商業をさせていただいています。実際パソコン等で見ていただくと、フォーラムに限らずにごんに関する情報を知っていただけることとなりますので、ぜひご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

(真鍋会長)

ありがとうございました。ただ今のご説明に関しましてご質問あるいはご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

(3) 県からの報告事項について

28 年度取組予定について

(真鍋会長)

それでは次に進みたいと思います。今度は 3 番目、県からの報告事項、県の健康医療課の嶋村課長からご説明いただきたいと思います。

(滋賀県健康医療福祉部)

資料に入る前に別物で一枚ものの資料をご用意させていただいております。滋賀県のがん死亡率改善度は全国 1 位です。ここにおられます関係者、各団体、患者団体の皆様のおかげだと思います。本当にありがとうございます。死亡率の改善率は全国 1 位ですし、絶対値でも長野について 2 位というこ

とで、総合1位ということで非常に素晴らしい状況です。

具体的な28年度取組につきましては資料70ページです。詳細はまた見ていただけたらと思いますが、理念・方向観というのは、計画や条例に基づいてどのような攻略を立てるか、それを予算化させていただいているものです。

具体的にトピックスというか、71ページから見ていただきたいと思います。例えば「早期発見」、「働く」、「暮らす」、「希望」という方向観をまず予算化する時に、様々な方からのお話を聞きながら、作り上げさせていただいております。例えば「働く」ということですね、非常に患者団体の皆さんからも聞きながら「暮らす」と、この辺が家計プランの事業であるとか、あるいは「希望」ということにつきましても、妊孕性に向けての予算化したりしていただいているところです。

72ページ、まずは治療について相談をまずしてほしいなというところから始めていきたいということで、精子・卵子の温存という方法があるよということで、まずはご相談下さいというのが73ページでございます。滋賀医科大学附属病院中心に滋賀がん生殖医療ネットワークがありますので、また県としては、皆さんからお預かりした税を医療費助成という形で制度設計させていただきました。74ページは具体的な助成金の手続き方法です。男性は2万円、女性10万円ということです。

なかなかこの事業は、他府県からも問い合わせがあるくらい先進的でありまして、滋賀県に住んでよかったと思えるような制度設計をしてみたいと思いますので、今後とも皆様の御協力、ご理解いただければと思います。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。ただ今のご説明に関しましてご意見あるいはご質問ございますでしょうか。よろしいですか。

(4) 滋賀県がん患者団体連絡協議会からの報告事項

「がん患者力・家族力」向上事業、近畿がん政策サミット2016の結果

(真鍋会長)

それでは最後の4番目、滋賀県がん患者団体連絡協議会からの報告事項、先程と重なりますがよろしくをお願いします。

(がん患者団体連絡協議会)

近畿がん政策サミットの当日の様態をビデオで撮っています。それを私たちのホームページの「滋賀県がん患者力.com」に整理していますので、その当日の様態をアップします。アップしたらご案内しますので、ぜひ見ていただけたらと思います。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。今のことに関して何かご質問等ありますか。よろしいでしょうか。そうしましたら、その他に入りたいと思います。まずは本日の議題すべてについてご意見ございますか。

3 その他

(県健康医療福祉部)

少し言い忘れたことがありまして、73ページですが、ここに縦長で「滋賀県がん診療連携協議会・滋賀・がん生殖医療ネットワーク・滋賀県」と一番下のところに入れさせていただいたのですが、よろし

いでしょうか。本当に皆様、ご努力、知恵の結晶として、こういった制度設計ができましたので、ぜひやらせていただければと思います。

(真鍋会長)

ぜひこういうことをやっていただきたいと思いますが、ご意見ございますか。それではこれでいくということでもよろしくお願いします。

(高島市民病院)

去年4月から地域がん診療病院になりまして、この会に出席させていただいて1年になります。当院のほうにも緩和ケアとか問い合わせが増えてきておりまして、大津赤十字病院と連携も上手くいっているかなと思います。当院の信用にも非常にいい影響を与えていただいていますし、また高島地域のがん患者サロンも、いい形でさせていただいておりますので、今後ともご支援いただけたらありがたいと思います。

(真鍋会長)

ありがとうございました。金子先生よろしくお願いします。

(彦根市立病院)

発表をみてがんパスが進んでいても、開業医の先生が出てくれないというのはどうもあるようです。やはりいろいろ開業医の先生にとっては難しいところもある、そのへんはわかりませんが、それは地域連携通して、ますます強く訴えていかなければいけないというのがあるのですが、現場の医師からの声ですが、なかなか伸び悩んでいるところもあって、それは数字にも出ていますと実感しました。

それと提案と言いますか、やはりアウトカムが求められる時代になって、予後がかなり大きくなっていると。そうすると基本的にはアウトカムは当然改善しないといけないわけですね。そうしますと、昨今がんリハとか今やっているように、そういうリハビリ、あるいは摂食嚥下障害のあるがん患者さんに対するサポート、それに関わるPT・OT、あるいは栄養士さんのそういった職能団体の方にも加わってもらおうということもいいのではないかと思います。

(真鍋会長)

ありがとうございました。部会のほうでご検討いただければと思います。

(公立甲賀病院)

私も金子先生と同じようなことを申し上げようと思っていたのですが、がんのパスですが、更に数字の少ないところなのですが、今回先程大野先生もおっしゃっていましたが、パスの評価をこれからしていただけるということで、やはりこれの効果は患者さん側、医療者側、診療の効率化とかいろんなことに、どの程度役に立っているのかということを具体的に示していただけると、もっとやらないかということと言えるのかなと感じました。

それからがんに関わる医療人の育成ということですが、今回も常勤の病理医がいないということ、補助金の締め付けがあるようです。当院は常勤医がいないのですが、なぜかそういうところから、1人の臨床医研修医が病理を目指して4月から大学に戻るわけなのですが、だからといって、その人が戻ってくることはないわけで、やはり一番大事なところが少し欠けた状態で、上だけどんどん積み上げて、その下のほうに欠けているようでは、結局土台が崩れるのではないかと思います。これは真鍋先生にお願いしたいのですが、確保と育成ということで更にご尽力いただければと思います。以上です。

(真鍋会長)

ありがとうございました。病理のことが出ましたが、日本学術会議のほうで病理が不足している現状を何とか改善する方法というのを、一つ連携を組んでやれば認められる形にしてほしいと、お願いを近々出すようになると思います。本当にこれが通ってくれたらいいなと思っています。

最後に宮地先生の方からお願いします。

(成人病センター)

私は一昨年の10月から成人病センターに参りまして、それまでずっと大学人でしたので、私自身はがんの専門ではありませんが皮膚科としてがんに貢献してきたつもりでした。がんの拠点病院に来て、こういう会に出て、あるいはいろんなサミットに出ると、私たち今まで決定的に欠落していたのは、患者さん、がんの患者さんその願い、思い、生活、そういったものに我々目がいっていなかったということを感じました。そういう拠点病院に来たということを契機にして、がんを医学生物学的だけでなく、トータルに考えられる、患者さんの気持ちとか思い、生活、願い、そういうところをトータルに包括したものが、本当のがんの診療の総医療だと思うので、そういった視点でしばらくこういう会に参加しながら、修行していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

(真鍋会長)

ありがとうございました。まさにそこがこの協議会の目的ではないかと思えます。最後に松末先生と石川先生におまとめいただいて、これからの提言をいただければと思います。

(松末副会長)

前半、委員会のところにおいては意見を申し上げなかったのですが、滋賀医科大学附属病院の立ち位置として、新しく診療支援部会と研修推進部会が少し内容を改正されまして、がんの均てん化から更に進んで今現在、整備はもう少し残っているところがありますが、かなり器械とかは整備されてきています。滋賀医科大学附属病院としては、特徴的ながん診療ということで、前立腺の小線源治療は全国から患者さんが来られて年間、百何十件行っています。がん生殖医療や、滋賀県では二台ありますが、ロボット、ダヴィンチ手術とかそういうもの、あるいは創薬に結びつくような取組もやっています。今度第3期に高度医療とか、がんの臨床研究とか、そういったものが国の政策の中で、次のステップに入ってきているということで、患者さんの支援というのは当然もっと進めないといけないものがありますけれども、こういう先進的な医療というところにもこれから少し入ってくると感じられます。

というのは4月1日から患者申出療養というのが始まります。皆さんご存知だと思いますが、一応新規の場合では特定機能病院が相談窓口になって、患者さんにセカンドオピニオンという形で外来で相談を受けつけまして、中核病院、近畿では大阪大学とかありますが、そういうところではできるかどうかという話になって、自費と保険の部分でやるということで、外国では使われているけど日本では使われていない、あるいはエビデンスがあるけれども適用になっていないというものが、適用になります。

もう一つ、同じく治験外治験と言いますか、拡大治験と言いまして、治験が終わってしまっているけど使ってほしいとか、あるいは年齢の問題や併存症の問題、検査データの問題で治験に参加できないような患者さんで、製薬メーカーの許可があれば、こういうものもできるといった時代に入ってきたということで、かなりそういう意味でがんに対する治療もこれから期待できるということで、先程の生存率もすごくよくなってきているということで、これからさらに期待できるのではないかと、次のステージに入ってきていると思います。

滋賀医科大学附属病院としては、人材の育成については、これから増えてくるのではないかと思います。放射線の治療も頑張ってくださいまして、それから薬物療法とか化学療法についても、かかり

つけの薬剤師さんの業務の支援させていただいているということで、これから在宅に向けても、あるいは地域でやらなければいけないがん治療の一般的なものについては、これからどんどん人材を派遣していかねばいけないと感じています。以上です。

(石川副会長)

先程申し上げたとおりです。もうひとつ言わせていただくと、嶋村課長さんから出していただいたがん死亡率の改善は非常にありがたいことで、しかも死亡率の低さも全国2位ということです。この成績そのものは各医療者の努力によるものだと思いますが、医療側は治すというか、こういうことについては努力してきた。後はやはり質の問題で、生き残ったと言いますか患者さんの質の問題もありますので、このへんのところは各施設が努力するだけでなく、こういう滋賀県全体のがん診療に関わる連携が大事になってくるのではないかと思います。そういうところでこれからの課題ではないかと思います。

(真鍋会長)

どうもありがとうございました。お二人の先生におまとめいただきました。それではこれもちまして協議会を終了させていただきます。来年も引き続きこの協議会のために御協力をお願いしたいと思います。本日は本当にお忙しいところ、お集まりいただきまして大変ありがとうございました。